

DAIDO CAMPUS

DAIDO INSTITUTE OF TECHNOLOGY

2002.4.25 No.40

編集・発行 大同工業大学社会交流センター

〒457-8530 名古屋市南区滝春町10-3

TEL 052-612-6193

No.40



桜並木を歩く新入生

CONTENTS

授業開発センター 設立1周年を迎えて 情報学部 情報学科 誕生

平成14年度 入学式

TOPICS

学位記授与式

新任教員プロフィール

退任教員からのメッセージ

キャンパスライフ クラブ活動報告

アンテナ

ファインセラミックスフェア

桑山教授最終講義

CRCにおい研究交流会

研究室を訪ねて 青山正治教授

ゴビーの散歩道 中島浩衛教授

INFORMATION

季刊

大同工大キャンパス



春季号 2002

APRIL

4

授業開発センター 設立1周年を迎えて



授業開発センター長 曾我静男

「授業開発センター」がスタートして1年が経過した。丁度1年前、本誌の片隅に『授業開発センター設立紹介問答』と題し、何を目標として、こうしたセンターを設立するのか、そこではどんな活動を思い描いているのかについて紹介したので、覚えておられる方もいると思う。ここにふたたび機会を与えられたので、今回は1年間の実際の活動に即して、私的な感想をまじえながら、途中経過を報告してみたい。



1年前の『紹介問答』では授業開発センター設立の趣旨についておおよそ次のようなことを述べた。現在、多くの大学でFD活動(大学教員の教育能力開発活動)の名の下に、授業改善を目指し、アンケート形式で学生から授業評価を受け、分析を施し、報告書を刊行するなどの試みがなされている。本学でもすでに平成8年度からそうした試みを継続してきた。しかし、この種の試みは、フィードバック担保が個々の教員の自発的な教育努力に依存しているために、導入当初持っていたインパクトを次第に失っていくにつれて、ペーパー上の掛け声に終わりがちである。本学もそんなマンネリ状態に陥っている。この度の授業開発センター設立の核心は、「FD活動=学生による授業評価=報告書刊行」という、こうした限界を突破するために、ワンランク上の、授業現場に密着した開発方法を探ることにある。それには教員同士が授業参観を行い、相互に批評し合うしかない。授業開発センターは、全教員の授業をオープンにして、教員が主体になって恒常的に授業を参

観しあい、授業研究会を催し、たがいに授業方法を批評し、学び合う、そうした実践的な組織を目指すのだ、云々…。

中期目標と2001年度 計画を立てる

授業開発センターは、センター長、次長、6つある学科から各1名、一般教養・教職課程から2名の計10名の所員によって組織された。事務局は室長、事務職員各1名である。

まず中期目標として以下の二つを立てた。一つは教育実践面で、2004年度末までの4年間ですべての専任教員の研究授業を実施する。得られた成果を全学で共有し、授業改革意識の定着を図る。もう一つは、学生による授業評価関連で、従来からの「授業評価アンケート」を継続するとともに、新たに「学生による学習到達度評価アンケート」を開始し、本学の教育プログラムが円滑に実施されているかを学期ごとにチェックする。同時に分析報告書の充実とその結果を学科等へフィードバックし、改善策を施していく。いうまでもなく、どちらも本学の大学としての対外・対内的モットー、「教育重視型大学」の内実を象る重要な活動である。

とっかかりの2001年度のセンター運営の基本方針は、前者では、まず何より先研究授業と授業研究会を軌道にのせること、そしてその成果を何らかの形で学内にあまざず公開することに置いた。後者では、「学習到達度評価アンケート」を円滑に実施することを目指した。

研究授業と授業研究会は どのように行われたか

表1は、この1年間の研究授業の実施状況である。前期10名、後期13名、合計23名の教員の授業を研究対象にした。各学科と一般教養・教職課程を実施単位として、ローテーションしながら、学期始めと終わりを除いて週1回のペースを守った。

表2は研究授業と授業研究会への他教員の参加状況である。いずれものべ人数であるが、研究授業参加者が179名、授業研究会参加者が152名である。数値からは、センター所員のポジティブな参加意識が読みとることができる。1回あたりの研究授業参加者は平均8名、授業研究会参加者が7名である。実践よりも理屈に閉じこもりがちな大学教員としてはまあまあの数値である。しかし、センターの狙いは、こうした単なる数値には現れえない、この試み自体が教員にジワリともたらす意識変化である。私の印象では、研究授業と授業研究会の試みは、大多数の教員に「次はあなたの番だ」と迫り、迫り来る研究授業の準備を大多数の教員が日々の授業の中でひそかに練っているのではないかと思っている。

少し読者に研究授業と授業研究会の手順を具体的に紹介してみよう。まず、実施単位から研究授業担当者が推薦される。センターはその教員に前もって、研究授業に関連した資料を自発的に提出していただく。教育観や学生観を披瀝したもの、授業用のレジュメ、その授業の位置づけなどのプリントである。続いて学科、教室横断的に参観者をつくり、担当教員から提出された資料と、研究授業アンケート用紙、シラバス、その教員の過去の「授業評価結果」や成績評価状況などの資料を配布する。

研究授業の当日、参観者は教室の最後列でメモを執りながら参観する。授業方法、教室運営、授業内容、学生の授業態度、遅刻者の



状態など、様々な観点から観察が行われるわけだ。授業の終わりに参加教員に授業のよかった点、改善点などに関するアンケートを実施する。受講学生にたいしても同様のアンケートを行う。それらは授業研究会での重要な資料となる。その後、原則として当日の16時30分から18時まで、授業担当者、授業参観者の出席のもと、その授業に関する研究会が開催される。上述の様々な資料を参照しつつ、主として授業方法的観点と、授業内容的観点から、90分の議論が行われる。

研究授業と授業研究会の様子は、『授業批評』というセンター所報を通して、逐一、学内に発信される。『授業批評』は、授業担当者のコメント、研究授業の様子、授業研究会の報告の三部で構成されている。1年間で第4巻まで発行した。学内用のため原則的に外部公開はしていないが、仲間内意識を排除したなかなか厳しい内容になっている。

「学習到達度評価アンケート」の実施

すでに述べたように、2001年から始まった本学の標準教育プログラムの達成度を見るために、「学生による学習到達度評価」のアンケートを初めて試みた。このアンケートは、01生が対象であるが、教育プログラムの対象である授業科目のすべてについて実施した。アンケート項目は、全科目共通の出席や予習・復習の程度を聞くものと、科目ごとに設定された学習到達目標に学生が到達したかどうかを自己評価してもらうものから成っている。「1.まったくできない。2.あまりできない。3.半分程度できる。4.だいたいできる。5.できる。」というのが、後者の回答肢である。授業担当者は、この結果を見て、

次の授業への改善に繋げていく。指導教員は、指導学生に個別にアドバイスするというのが当面の使い道である。

前期については「結果報告書：データ編」と「分析編」を発行した。「分析編」はセンターで可能な範囲の分析観点からのものであるが、学科や教室では、毎学期ごとに教育プログラムに即した具体的な分析がなされ、改善策が提案されることになっている。

2002年度・課題と展望

3月のセンター運営委員会において、2002年度のセンターの運営計画を策定した。研究授業と授業研究会の持続と充実、学生による二つのアンケート実施とその授業へのフィードバックという基本的な方向については改めて確認された。しかし、1年間の試行を振り返り、課題もいくつか議題に上った。研究授業と授業研究会に関する主な課題としては、第1に参加者がまだまだ少数であり、教員の相互啓蒙、意識改革の視点から言って、もっと増やせないか、第2にセンター発足時にはベンディングになっていた学外者の参観について公開の方向で検討できないか、といったものである。第1の課題に対しては、センター所員を増員する、指名参観者2名というルールを徹底する、非常勤講師の方々への参加を積極的に呼びかけるという対策が提案され、今年度はこの方向で実行していくことにした。第2の課題については、昨年度、他大学から参観の申し込みがあった経緯も考え、高校、大学の教員に限って参観に必ずすることとした。

学生による「授業評価アンケート」に関しては、「学習到達度評価」アンケートと同様に、学科、



教室単位へのフィードバックを図ることにした。また報告書についても、従来の感想主体のおおざっぱな形式ではなく、授業観、前回の課題と改善結果、授業計画の実施状況、アンケート結果に対する分析と考察、改善策等々のきめ細かい項目を立て、それに対するコメントを求めることにした。アンケート結果に個々の教員が真摯に向き合うことを狙ったものであり、逆に言えば結果に対する分析基準をある程度統一したいという考えがここにある。



昨年度は23名の教員の研究授業を実施したのだが、そのうち3名の方から、できれば今年度もう一度自分の授業を参観してもらいたいという要請があった。もったいない授業をしてみせろというわけである。都市環境デザイン学科、数学教室、化学教室の先生たちである。どなたも第1回目の研究授業で参観者から高い授業評価が与えられた方々である。授業開発センターは、暗闇に向かって跳躍するような決断で始めたが、そして多くの教員の共同意志に支えられて何とか1年間やって来られたが、正直に申せばこうした方々が示された自発的で開かれた形成意志が最終的に今後の成否を決めると思う。

表1 実施した研究授業

	学科教室	実施人数	内 訳
一般教養・教職課程	人文社会	2	服部助教授、渡辺助教授
	数 学	1	多田教授
	物 理	1	今井講師
	化 学	1	酒井教授
	外国語	0	
	保健体育	1	水野教授
学 科	教 職	0	
	機 械	3	中島教授、和田教授、高藤助教授
	情報機械	3	西堀教授、大嶋助教授、松浦助教授
	電気電子	2	近藤教授、堀尾教授
	電子情報	4	坂教授、藤田教授、三品教授、烏野助教授
	建 築	3	笠嶋教授、萩原助教授、渡辺講師
	都市環境	2	堀内教授、酒造教授
付属	情報教育センター	0	
合 計		23	

表2 研究授業 / 授業研究会への参加状況

区分	学科教室	教員数 [A]	研究授業 参加者 B]	授業研究会 参加者 C]	合計 [B + C]	参加回数 / 教員 [(B + C) / A]
一 般 教 員	人文社会	3	2	2	4	1.3
	数 学	4	1	1	2	0.5
	物 理	3	2	2	4	1.3
	化 学	2	7	6	13	6.5
	外国語	5	1	1	2	0.4
	保健体育	3	1	1	2	0.7
	教 職	1	13	10	23	23.0
	機 械	10	7	6	13	1.3
	情報機械	10	5	3	8	0.8
	電気電子	11	7	5	12	1.1
	電子情報	14	6	4	10	0.7
付 属	建 築	10	4	4	8	0.8
	都市環境	10	4	3	7	0.7
	情報教育センター	1	0	0	0	0.0
授業開発センター所員		10	119	104	223	22.3
合 計		97	179	152	331	3.4

情報学部 情報学科誕生

この4月から本学に待望の情報学部情報学科(昼間主コース147名、夜間主コース40名)が設置されました。4月5日、情報学部情報学科の発足式がゴビーホールで執り行われ、複数学部をもつ大学に変貌しました。そこで、澤岡学長、藤田情報学部長から情報学部誕生の経緯、学部紹介をして頂きました。

大同工業大学は文理融合に向かって舵をきりました

学長 澤 岡 昭

情報学部情報学科が設置され、大同工業大学は大きな方向転換を始めました。本学のルーツである大同工業学校が誕生したのは1939年1月、私が生まれたのが38年12月ですから、奇遇にも学園も私も同じ63歳です。

大同工業大学は1964年に機械工学科80人、電気工学科40人で発足しました。その後、建設工学科、応用電子工学科が増設され、昨年4月にはこれらの組織を6学科に再編成しましたが、すべて工学部の枠の中で行われました。本学は1964年創立から38年間、単科大学として優れたエンジニアの育成を看板に教育と研究に努力してきました。

情報学部の誕生によって、本学は複数学部をもつ大学へと変わりました。情報学部設置は電子情報工学科を母体として行いましたので、この学部には工学の色彩が強く残っていますが、2学部になったという意味は想像以上に大きいと思います。

情報学部一期生が卒業する4年後までに、情報学部は工学部と異なる文化をもつ学部として大きな変貌を遂げると思います。異なる文化が共存する大学であることが本学の発展にとって不可欠なのです。

過去20年間、我が国の産業構造は急速に変化してきました。その変化の真っ只中にある我われには、それほど実感として感じないかも知れませんが、将来の歴史教科書には、「20世紀末から21世紀にかけて日本は過去に例のない程の大きな激動を経験した」と書かれるでしょう。

国際社会の中で我が国は長い間、我が国は独特の社会構造をもつ国であることを主張し、独特の経済を維持してきました。1991年は衝撃的な年でした。ソ連邦が崩壊し、日本のバブル経済が崩壊したのです。ソ連崩壊をきっかけに一つの判断基準による世界経済の急速な再編成が始まりました。これがグローバリゼーションです。その結果、現在日本は出口の見えない大不況という窮地に追い込まれています。製造業が人件費の低い中国に続々と生産拠点を移しているのも、このグローバリゼーション経済の結果です。

本学は開学以来、社会の要請に応じて質の高い技術者を企業に送り出すことを使命としてきました。中部地区がわが国の製造業の中心地であることは、今後も変わらないと思いますが、その内容については大きな変化が起こっています。日本の産業構造は急速に変化しており、これに応じて、企業も積極的に変化しなければ、たちまちにして倒産することでしょう。私立大学として例外ではありません。

急速に変化する社会が要請する技術とビジネスを融合させた分野に感性を加えた新しい学科が本学の情報学科です。もちろんIT(情報技術)を自由自在に駆使できることは言うまでもありません。本学科の教育内容を社会の変化や技術の進歩に応じて、刻々と変化させる必要があります。

発足した情報学部情報学科は現在のところ、工学を背景にもつ理工系情報学科です。もっと、社会科学や芸術の要素を加えることが必要であると考えています。近い将来、この要素を大きく加えた第2学科を実現したい



と考えております。この点から言えば、今回の情報学科の誕生はレースの折り返し点に到達したと言うことができます。



情報学部長 藤田 順 治

誕生の背景

近年、IT(情報技術)の進展には目覚ましいものがあります。これは、情報・通信の分野だけでなく、社会全般にも大きな変革をもたらしています。

多くの企業でも、コンピュータのハードやソフトの技術、開発能力を身に付けているだけでなく、分かりやすいマニュアルの書ける人、技術英語の読み書きができる人、言い換えれば、豊かな人間性と真のコミュニケーション能力に富んだ人材が求められています。

こうした社会の要請に応えるため、今までの電子情報工学科を母体として、新たに情報学部・情報学科を設置し、情報化社会に通用する人材の育成に努めることにしました。



情報演習室

新学部・学科の内容と特徴

新学部では、これまでの「文系・理系」の枠を超えて、情報技術についての幅広い基礎知識の上に、技術力、文章力、英文力、人間性を身につけ、情報化社会に貢献でき、世界に向けて情報発信ができる感性豊かな情報人を育てようとしています。

まずは情報学科のみの単一学科、学生定員184名でスタートし、将来は複数の学科からなる情報学部へ発展させる計画です。もちろん、大学院構想も描いています。

情報学科には、ハード・ソフトの開発やシステムの構築ができる高度の情報技術を学ぶ電子情報系と、多様なソフトウェア技術の設計と応用を学ぶソフトウェアデザイン系を、さらに、ソフトウェアデザイン系には、ソフトウェアそのものを設計するソフトウェア設計コースと、ソフトウェアを存分に使いこなして、コンピュータグラフィックスや多様なコンテンツの制作等を学ぶ、ソフトウェア活用コースを設けました。

電子情報系の卒業生が活躍できる分野としては、情報通信・OA・マルチメディア・産業機器業、情報関連デバイス業、一般電気機械業が、また、ソフトウェアデザイン系では、コンピュータソフトウェア設計、情報システム設計、情報処理、情報通信サービス、マルチメディアソフト制作、情報コンサルタント、テクニカル・ドキュメンテーションが考えられます。

カリキュラムは、右上の表に示すように、従来の人間科学科目、基礎科目、基幹科目、展開科目、関連科目からなっており、教育の特徴は、次に示す3つの項目に要約されます。

情報演習室一覧表

名 称	情報演習室		情報演習室	情報演習室	情報演習室	情報演習室		合計
	1	2				東	西	
室 番 号	D0203	D0205	E0201	E0202	E0203	E0302	E0303	-
収 容 定 員	40	40	44	42	42	40	38	-
PC台数(含教員用)			45	43	43	41	39	211
プリンタ モノクロ	-	-	3	3	3	3	3	15
カラー	-	-	1	1	1	1	1	5
スキャナ	-	-	-	-	-	22	-	22
スクリーン	-	-	1	1	1	1	1	5
プロジェクタ	-	-	1	1	1	1	1	5
書画カメラ	-	-	1	1	1	1	1	5
備 考	学生実験用					合同/分割使用可		

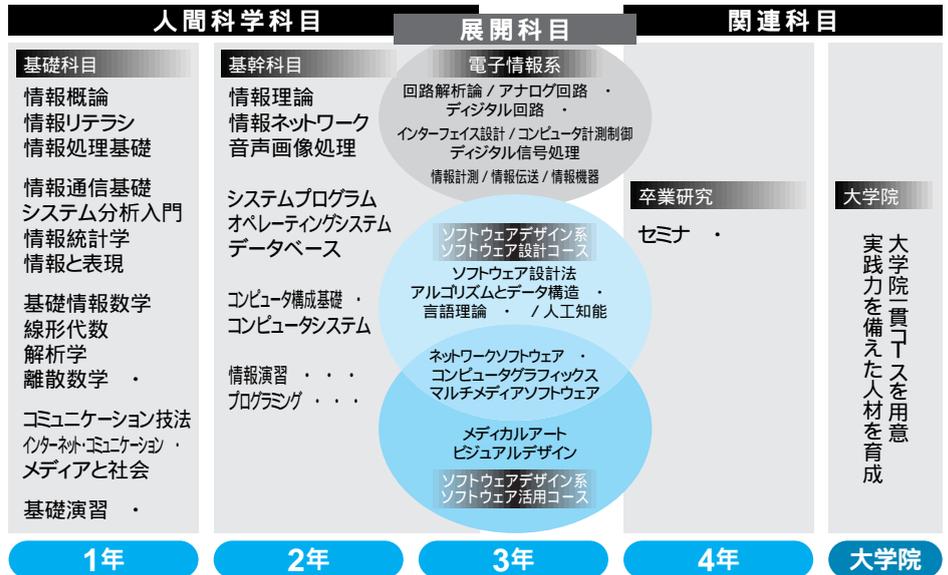
PC機種:日立 Flora350、15型液晶ディスプレイ

OS:Windows XP ProfessionalとTurbolinux 7をブートセクタで選択

プリンタ:エプソン LP・770C(モノクロ)、LP・8800C(カラー)

スキャナ:エプソン GT・7200U

PC搭載アプリケーションソフト:Microsoft Office XP Professional(MS Word 2002 ,Excel 2002 ,Access 2002 , Power Point 2002), AL・Mail32 V.1.12 , Internet Explorer , Acrobat Reader 5.0.5 , Norton AntiVirus Adobe Photoshop Elements(E0302のみ) 動画編集ソフト、その他



1. 基礎から応用まで幅広い分野の情報技術の総合的な学習
2. 習熟度に合わせた履修モデルの選択
3. 実用的な情報表現法の系統的な学習

具体的には、徹底した少人数教育による、きめ細かな教育、演習などの体験的学習、コミュニケーション力・表現力を養うためのカリキュラム、感性豊かな人間性を養い、自己表現力を身に付けるためのビジュアルアートなど、楽しみながら学んで行くうちに自然と必要な学力、知識、技術が身につくような教育法によって実現しようとしています。詳しくは情報学部・情報学科のパンフレットを参照して下さい。

この表にある正規の授業の他に、今年度は、4月に発足する「エクステンションセンター」の活動の一つとして、新任の櫃田珠実先生による特別講義「ベーシック・ビジュアル・アート」が始まります。毎週火曜日の第5限です。情報学科の学生さんだけでなく、興味と関心をお持ちの方々への聴講をお待ちしています。

新学科の教員

人間科学科目の授業は教養部の教員方をお願いしており、専門科目の授業には、電子情報工学科と電気電子工学科から移籍した、ハード、ソフトの専門家に加えて、新たに、ドキュメンテーションの専門家や、第一線で活躍しているコンピュータアートの専門家をお迎えして担当していただくことにしました。教員のプロフィールについては、情報学部・情報学科のパンフレットや「ATTENTION PLEASE」をご参照下さい。

新学科の情報演習室

上述の少人数教育を実施するため、各テーブルにコンピュータを備えた情報演習室を用意しました。大型実験棟(D棟)の2階に用意されている学生実験のための情報演習室Iの他に、第2実験棟(E棟)2~3階に、情報演習室からVまでが設けられています。これらの部屋の仕様と設備された機器を左下の表に示します。

この他に、全学的な施設として、大型実験棟(D棟)に夢スタジオの整備が進んでいます。将来は、各種の制作活動を通じて情報発信の力をつける場として、この設備を有効活用したいと考えています。

今後の発展

今から数年前には、現在のような情報化社会の出現は予想できなかったように、情報学部が完成年度を迎えたとき、世の中がどのように変革しているか、想像することすら難しいようです。「それを予測するのが情報学ではないの?」と言われそうですが、現実には、社会の変革を引き起こす要因があまりにも多く、進歩があまりにも急過ぎます。新生情報学部では、どのような社会が訪れようと、柔軟な対応によって、社会の要請に応えられる人材を育成できるようにしたいと考えています。皆様のご支援とご協力を切にお願いいたします。

平成14年度 入学式・学長告辞



学部生、大学院生、そして委託生として入学された諸君、入学おめでとう。ここに来賓はじめ多くの関係者のご出席を得て、大同工業大学入学式を挙行できることに心からお礼申し上げます。同時にご父母をはじめとする、入学生を育ててこられた皆様に心からお祝いを申し上げます。この良き日を迎えることができましたのは、本人の努力はもちろんのこと、周囲の皆様のご苦勞に対して、改めて敬意を表します。

皆さんは大同工業大学がどんな大学であるか知っていますか。本学は63年の歴史を有する大学です。福沢諭吉という方を知っていますか。日本に民主主義の考えを導入し、慶応義塾を設立された歴史的な人物です。福沢諭吉の娘婿である福沢桃介もわが国の近代産業を興した人物として、歴史に名を留めております。

福沢桃助翁は大同電力株式会社を設立し、木曾川にダムを築き発電所を建設しました。発電された電力を利用するために中部圏に数々の産業が興されました。それが現在の中部電力、名古屋鉄道、大同特殊鋼などへと発展しました。福沢桃介翁はこの事業を通じて工学が産業の糧として必要なことを痛感し、工学教育に多額の私財を投じました。この意志を受けた大同製鋼の下出義雄社長は福沢桃介翁の亡くなった翌年の1939年に大同工業学校を設立しました。これが大同工業大学の始まりです。

大同工業大学が誕生したのが1964年です。それ以来37年間、本学は工学部だけの単科大学として、エンジニアの養成に力を注いできました。

この度、情報学部が誕生し、大同工業大学は複数学部をもつ大学になりました。情報学部へ入学した皆さんは第一期生です。

学部へ入学の諸君、君たちは今までの人生をどのように過ごしてきましたか。今ここに一同に会した諸君と私たち教職員は、大同工業大学の家族として、これからの苦楽とともにするのです。諸君は私たちにとって大事な仲間です。

大同工業大学の基本は、学生の視点に

平成14年度入学式は、4月5日(金)石井記念体育館において、新入生、父母、教職員、来賓の列席のもと厳粛に挙行されました。新入生は、工学部653名、情報学部248名、工学部編入5名、大学院工学研究科修士課程54名、博士課程1名、委託生2名の963名が入学しました。

立って教育を行うことです。どのようにしたら、君たちのためになるかということ、最優先に私たちは考えています。しかし、学生の視点に立つということは、甘やかせることではありません。

本日の午後には基礎学力の試験があります。受ける科目は工学部と情報学部によって異なります。これから勉強する工学や情報学の基礎となる科目を十分にマスターしていない学生が沢山いるはずですが、本日の試験の結果を参考に、学力が不十分の学生に対する補習を行うことを計画しております。君たちには、できるだけ早く本学の学生として必要な学力を身につけて欲しいと思います。また、新しく4月8日より、学習についてなんでも親身になって相談にのる学習支援室を開設します。この部屋のニックネームは、アップル・ケア・センターです。皆さんが本日受け取る案内の中に、アテンション・ブリーズという授業や大学生活について説明した大切な冊子があります。毎年、この冊子の表紙にはりんごの写真が使われています。りんご、アップルは君たちです。困った時は、迷わずアップル・ケア・センターを訪ねてください。

大同工業大学は卒業が難しい大学の一つであると言う人がいます。4年間で卒業できる人は約80%です。最近は高校教育の多様化が急速に進んでおり、大学の授業について行けないため、ストレートで卒業できる学生の割合は下がる傾向にあります。最初の出だしが非常に大切です。君たち一人一人の自覚が大切です。特に、はじめて親元から離れてアパートや下宿住まいになる諸君は、気持ち強くもって下さい。

大学生活は勉強ばかりではありません。5月下旬には大学祭があります。秋には庄内川でボートのレガッタがあり、希望者全員が参加することができます。すでに全国制覇をしたクラブもありますし、急成長を遂げている運動部もあります。クラブや部活動に参加する人はエキサイティングな学生生活をおくることでしょ。

自分にとって何が好きなのか、何をやりたい

のか、何が得意か。これが分かり、得意なことを中心にした生活を始めると毎日が楽しくなりますし、自信がついてくるものです。しかし、自分が本当に何が好きなのかを見つけることは容易ではありません。

まず考え、そして思うことを存分にやりなさい。一生懸命やっている、人生は思いもかけない方向に展開するものです。自分の可能性に賭けることです。多くのことを経験することによって変わってゆく自分に驚くはずですが。

修士課程入学の諸君は自分の道を見つけましたか。これからは専門家の卵としてもっともって君たちの才能を磨くことです。

委託生のみなさん。すでに企業で現場を経験された君たちは、勉強に専念できる貴重な一年間です。頑張ってください。

大同工業大学は大きく変わりました。開学60周年の記念事業として始まった新キャンパスが一昨年に完成しました。建築学科と都市環境デザイン学科の本拠地である隣の白水キャンパスも整備が行われたばかりです。

現在、大同工業大学は人間と社会の繋がり強く意識した大学に大きく生まれ変わろうとしています。社会が最も必要としている感性豊かな人間を育てる大学に生まれ変わるのです。

諸君、待ち遠しいこと、苦しいこと、過ぎてしまえば、時はあっという間に過ぎるものです。四年間の学部生活、さらに大学院入学の諸君はこれからの学生生活を勉強、研究、スポーツ、部活、友人とのディスカッションなどに思いっきりぶつけて、愉快的な青春時代を過ごされることを心より願っています。

私たち、教職員と在校生は皆さんをこころから歓迎します。



平成13年度 学位記授与式

早春の3月20日(水) 平成13年度学位記授与式が石井記念体育館で挙行されました。

澤岡学長から「学生時代の友達は一生頼りになる財産です。卒業後も友人を大切にしてください。企業に入ると、仕事の好きも嫌いもありません。何でもこなす覚悟が必要です。しかも、技術は日進月歩で変わってゆきます。大学で学んだことはすぐに役に立たなくなるでしょう。しかし、考え方の基本は変わりません。恐れることはなにもありません。これからの、一生は勉強です。もっと勉強しておけば良かったと思うことにすぐぶつかるはず。そんな時、大学を思い出して下さい。どのように変わるとも大同工業大学は君たちにとって一生頼りになるふるさと



です。もう一度勉強する場として、相談にのってくれる場として、いつでも扉を開いています。大同工業大学は永遠に君たちのふるさとです。」との告示を厳粛に受け止め、卒業生を総代して森田知華さ



ん(建設工学科土木工学専攻)は「卒業生であることを誇りとして、日々精進を重ね、色々な悩みや苦難に直面した時は、決して挫けることなく、一步一步前進していく決意であります。」との力強い希望に溢れた答辞があり、学部の卒業生741名、大学院修士課程修了生57名、博士課程学位記授与生1名、委託生修了生2名らは、実社会へと巣立ちました。

卒業パーティーは、名古屋観光ホテル(名古屋市中区)に場所を移して、710名の参加者のもとで開催されました。卒業生を代表して、萩原永悟実行委員会委員長から「四年前に期待と不安に胸をふくらませ、入学した本学をこのたび卒業し、4月からは新しいスタートを切る事になりました。今後は本学で学んだことを活かし社会で頑張っていきたいと思えます。」と力強い挨拶があり、卒業生らは、ゼミ仲間、教職員と終了予定時間を越えるまで別れを惜しんでいました。

平成13年度 学長賞・三好賞

受賞おめでとうございます。学長賞・三好賞が3月20日(水)挙行の学位記授与式において次の方々に授与されました。(敬称略)

学長賞

成績優秀者

機械工学科	石川 前衛(彦根西高校)
	齋木伸一郎(岐阜工業高校)
	篠田 明宏(長良高校)
	村井 映介(瀬戸北高校)
電気工学科	一円 明(河瀬高校)
	横口 健介(高山工業高校)
	岩崎 明雅(東浦高校)
建設工学科(土木)	名木野晴暢(新城東高校)
	世古 学(鳥羽高校)
建設工学科(建築)	鈴木 祥太(桜台高校)
	塚原 泰美(春日井南高校)
応用電子工学科	川瀬 善之(大垣西高校)
	西山 巧(篠山産業高校)

課外活動優秀賞

レーシングカート部 横地 学(南山国際高校)

功績・善行優秀賞

ロボットグランプリ 闖目 和也(半田工業高校)

大学院修士論文優秀者

機械工学専攻	中澤 卓也	奥村 和典
電気・電子工学専攻	大橋 晴彦	水野 伸治
建設工学専攻	梶川 泰敬	平尾 和久

三好賞

機械工学科	加嶋 哲也(知多東高校)
	萩原 永悟(掛川工業高校)
電気工学科	河合 秀治(羽島高校)
建設工学科(土木)	村瀬 充(知多東高校)
建設工学科(建築)	近藤 章雄(大同高校)
応用電子工学科	加藤 洋一(中津高校)

平成13年度学生表彰

[1月10日表彰]

第5回ロボットグランプリ(日本機械学会主催)からくりロボット競技会3位入賞

機械工学科 闖目 和也(半田工業高校)

第18回JIA 東海支部設計競技(日本建築家協会東海支部)銅賞

建設工学科(建築)岩田 光洋(名古屋大附高校)

[3月 日表彰]

卒業テーマから特許出願「ホームセキュリティシステム」

応用電子工学科 矢部 尊弥(南山高校)
矢部 泰成(福井工大附福井高校)

学位取得 おめでとうございます



機械工学科 市川武久講師

平成14年3月15日付けで名古屋工業大学から博士(工学)の学位を取得されました。

学位論文「平行二円板間のはく離泡に及ぼす入口形状と回転の効果」

新任教員のプロフィール

4月1日付で本学に着任されました先生方です。

に活かし、それを製品に結実させることにチャレンジしてきました。特に、最近では、電気自動車用電源、モバイル電子機器用電源、あるいは家庭電源への適用が期待される固体高分子形燃料電池の研究開発にチャレンジしています。気が付いてみると、燃料電池の世界では最古参の人間の一人に数えられるようになりました。今後は、こうした企業の開発現場において磨き上げた機械工学実践の経験を、大同工業大学の教育の場で活かしたいと考えています。



教養部物理学教室
助教授

はら しな ひろし
原 科 浩

プロフィール
最終学歴 名古屋大学大学院
(理学研究科物理学専攻博士課程)
学 位 博士(理学)
最終前歴 名古屋大学理学研究科
生年月日 1962年1月17日
専門分野 物性物理学(化合物の超伝導、磁性)
趣 味 将棋、囲碁、乱読

地元春日井市の出身で、ずっと名古屋近辺を離れることなく過ごしてきました。大学を卒業して6年間は岐阜県で民間(中堅)企業の技術者として働きました。その後物理への情熱を抑えることができず、会社を退職して大学院へと進学し、現在に至っています。

企業での私の乏しい経験からですが、大学で物理を学んだことが大変役に立ちました。先輩が経験を通して得たノウハウを盗むにも、ただ覚えるのではなく「なぜか」と問い考えることで、経験の差を縮めることができます。工学にとって基礎物理教育は縁の下で支える役割のようですが、社会に出てからも役に立つのは基礎教育の部分なのかもしれません。責任の重さを感じつつも、学生と一緒に物理を楽しんでいけるように頑張ります。

根っからのインドア派で、学生時代は将棋部で活躍(?)したのですが、最近は忙しく指す機会も少なくなりました。お好きな方がおられましたら声をかけてみてください。



教養部教職課程
講師

たに むら りょう
谷 村 亮

プロフィール
最終学歴 広島大学大学院
(教育学研究科博士課程後期心理学専攻)
学 位 博士(心理学)
最終前歴 日本学術振興会特別研究員
生年月日 1973年11月19日
趣 味 音楽鑑賞、映画鑑賞、読書

生まれ育った広島を遠く離れ、ここ名古屋の地にやって参りました。出身学部の関係で、私の話す言葉は、広島弁に博多弁がブレンドされ、ちょっとオリジナルなものになっています。これから、名古屋で生活を始めるにあたり、いったい自分が何人になるのか興味津々です。

大学院では、時間の知識の発達過程について研究していました。実際に、学校現場にコンピューターを持ち込んで、時間の判断を問う課題を行わせ、彼らの思考過程を検討していました。比較的単純な課題なのですが、年齢によって用

いる方略がかなり異なっていて、認知心理学の立場からも教育実践の立場からも非常に興味深い結果が得られました。今後は、算数教育や理科教育全般に関わる知識の発達過程を明らかにしていきたいと考えています。

大学教員としては、ここ大同工業大学が私にとっての初めての大学となります。教育経験の乏しさを、若さでカバーできるように精一杯努力したいと考えています。



工学部機械工学科
教授

まつ い ま さ お
松 居 正 夫

プロフィール
最終学歴 大阪大学大学
(基礎工学部材料工学科)
学 位 博士(工学)
最終前歴 株式会社豊田中央研究所
生年月日 1942年1月11日
趣 味 硬式テニス、読書

1966年大学を卒業後、トヨタグループの研究機関である株豊田中央研究所に入社し、自動車車体を構成している板材のプレス成形の研究開発を中心に36年間研究生活を送ってきました。この度、縁あって本学にお世話になることになり、第2の人生を諸君と共に有意義に過ごしていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

21世紀は地球環境問題に対処できる技術開発が大きな課題の一つと言われています。自動車を例にして、この課題に材料、生産加工の面から貢献できるようなテーマを設定して研究するとともに、今まで企業研究所で培ってきた知識を諸君にお話し、「物づくり」の楽しさを真に理解できる人になるよう方向づけをします。オープンな研究室にしますので、気軽に立ち寄ってください。

テニスは毎土曜日に楽しんでいます。誘っていただければ何時でも駆け付けます。



工学部機械工学科
教授

ほり み ち お
堀 美 知 郎

プロフィール
最終学歴 立命館大学大学院
(理工学研究科博士課程)
学 位 博士(学)
最終前歴 株東芝 燃料電池開発部
生年月日 1950年12月18日
趣 味 ゴルフ、日本画

東芝の総合研究所(現、研究開発センター)において、機械工学をベースにウラン遠心分離機、新型沸騰水型原子炉、ガリウム砒素単結晶引上げ、燃料電池などの研究開発に携わってきました。この間、機械工学を最先端の技術開発



工学部情報機械システム工学科講師

いし だ とし ひ こ
石 田 敏 彦

プロフィール
最終学歴 名古屋大学大学院
(工学研究科博士課程後期)
学 位 博士(工学)
最終前歴 名古屋大学工学研究科
生年月日 1969年5月29日
趣 味 能鑑賞、手話

生まれも育ちも名古屋です。東京や大阪に比べれば田舎ですが、そこそこ都会であるところが気に入ってか、無理して名古屋を出ようって気はありませんでした。それで選んだ旧職場に入学し、そのまま学生から助手にまでなりました。希薄気体流という誰もが一度は憧れそうな宇宙に関係する分野に首を突っ込んでいます。

大学で学ぶことができる事のの一つが、立ちほだかる障害を乗り越えるために自力で探す・自力で獲得する力を身につけることではないでしょうか。何事もそうですが、初めから自分には無理だと諦めてはいけません。ある人が私に教えてくれました。「人生は望んだモノしか手に入らない」と。「望む」とは唯思っているだけでは駄目なんです。それを実行するために時間と労力を惜しまない。そうすれば、自ずと手に入ると意味です。じゃあ、その時間と労力をどう使うのか。その使い方を学ぶ場所は多分大学ではないでしょう。勉学以外も学べる宝庫が大学だと思います。



工学部電気電子工学科助教授

さか くら もり あき
坂 倉 守 昭

プロフィール
最終学歴 慶応義塾大学大学院
(理工学研究科・博士課程)
学 位 博士(工学)
最終前歴 自営業(ソフトウェア受託開発業)
生年月日 1958年1月28日
趣 味 写真、木工、園芸、カヌー、水泳、バトミントン

「さくら」と申します。「いたくら」と読まれた方はいらっしゃるいませんか?初対面の方の半数以上は「いたくら」と言われます。「いたくら」にも慣れてしまいましたので、そう呼ばれても返事はしますが、できれば「さくら」と読んでください。

生まれも育ちも名古屋ですが、学校と仕事の関係で、関西に6年、関東に3年間住んだおか

げで、「みゃあ〜」「だがや」といった言葉は、意識しないとしゃべれなくなりました。

趣味はいろいろありますが、なんでも自分の手で作ることが好きで、写真、園芸、木工に手を出しています。また、身体を動かすことも好きで、カヌー、水泳、バドミントンなどでシェイプアップを目指しています。

「偶然は必然の積み重ねである」という言葉が好きで、日頃の努力を怠ることなく、コツコツと成果を積み上げていけば道は拓けるものだと信じています。今後も、そのように行動しようと思心掛けておりますので、宜しくお願い致します。



工学部都市環境デザイン学科講師

木全 博聖

プロフィール
最終学歴 名古屋大学大学院(工学研究科博士前期課程地圏環境工学専攻)
学 位 修士(工学)
最終前歴 名古屋大学大学院工学研究科
生年月日 1970年9月28日
専門分野 コンクリート工学
趣 味 スポーツ観戦、写真

今春より都市環境デザイン学科でお世話になることとなりました。コンクリート構造物に発生するひび割れや、劣化・変質の進展メカニズムに関連した研究を行っています。これまでと違い、教育に重点を置いた活動になるとは思いますが、もともとそれを希望していたこともあり、理想的な職場を得ることができたと思っております。教育に対し並々ならぬ熱意を持っておられる都市環境デザイン学科の先生方から多くの事を学び、自分のスタイルを早く確立したいと考えております。

建設業は、今、非常に厳しい時代を迎えています。経済の成長時代に土木工学を学んだ学生は明るい将来を想像したでしょうが、今は逆に不安を感じている学生の方が多いのではないのでしょうか。しかし、今も昔も、さらにこれから、社会基盤整備が国の根幹をなす重要な仕事であることに変わりありません。この業界で働くことの夢や誇りを学生に与えてゆきたいと思っております。



情報学部情報学科教授

山内 五郎

プロフィール
最終学歴 名古屋大学大学院(工学研究科修士課程)
学 位 博士(工学)
最終前歴 財団法人宇宙環境利用推進センター
生年月日 1947年7月6日
趣 味 音楽鑑賞

本学の情報学部採用され心より感謝しています。情報学は歴史上最も発展のスピードが速く、その影響が最も広範囲に及びかつ現在も発展途上にあります。私の担当する情報ドキュメンテーションは、情報化、国際化が進む産業界に

あって、必要でありながら日本の大学になかった独特な教育・研究分野であり、若い学生の皆さんとともにこの分野を發展させたい、と思っています。

私は愛知県常滑市で生まれ育ち、NTT(当時は日本電信電話公社)に入社後、茨城県東海村の茨城電気通信研究所に配属され、その後、武蔵野電気通信研究所で研究に従事しました。愛知県と関東では、木々の高さ、葉の色、土の色、台風の頻度、地震が異なり、少なからず驚きました。また仕事で名古屋からの電話を受ける時、随所で名古屋訛りが認められ、外国語同様、方言もまたネイティブスピーカーとそうでない人々の間には超えられない大きな壁が存在するものであると認識しました。東海地方の学生さんが多く集まる本学が、より魅力的な大学となるよう微力ながら貢献したいと思っています。



情報学部情報学科教授

佐藤 秀樹

プロフィール
最終学歴 名古屋大学(工学部電気学科)
学 位 博士(工学)
最終前歴 愛知学泉大学コミュニティ政策学部
生年月日 1952年8月25日
趣 味 読書、旅行、音楽鑑賞

名古屋市南区出身です。大学を卒業して就職のため名古屋を後にしたのは、今から27年前の春のことでした。この度新設されました情報学部の一員に加えていただき、再び当地に戻ってきたことに感慨を覚えています。

情報処理分野が専門であり、特にデータベースを現在の研究対象としています。遡れば、情報処理との出会いは富士通に就職し、富士通研究所に配属された時に始まります。情報処理に関してほとんど無知の状態です仕事に就きましたが、ソフトウェア工学、データベース、人工知能などの研究開発に従事してきたことが今日に繋がっていると思います。その後、日本電装(現デンソー)を経て、4年前に愛知学泉大学の教員となりましたが、情報分野を専門とする場で教育研究に就きたいとの思いがいつの頃からか芽生えてきました。

情報分野は変貌を続けています。学生の皆さんとともに、常に勉強していかねばならないとあらためて思っています。



情報学部情報学科助教授

檀田 珠美

プロフィール
最終学歴 愛知県立芸術大学大学院(美術研究科絵画油画専攻修士課程)英国王立芸術大学大学院(MA取得)
学 位 修士(芸術学)
生年月日 1958年9月30日

15年程前、友人と冷やかして聞いた占師に「あなたは鉄に関する仕事があえて、それで大手に勤めりゃー。例えば松坂屋とか、ユニーとか。」いかにも名古屋の占師らしいことばに、当時河合塾の美術系受験コースに勤めていた私は、この人の思考範囲によれば、河合塾も大手といっいでいいだろう、でも鉄はどうしても思い当たらない。当時私は木版画を中心に作品を制作し発表していたので、「木ではだめですか」「いやーあなたは鉄や」立体作品でも作らないかぎり鉄はありえない。あたらぬ占いおじさんに出会ったものだと思いきや流したことがありました。最近ふと思ひ出しました。大同は鉄に関係があるし、名古屋の大手でもあるし、...占いが当たったともいえる...人生わからないものです。

私は今まで、10年間名古屋と東京、ロンドンの芸術系の学校で学び、15年専門分野(芸術)の学校に関わってきました。平行して芸術制作の研究活動を24年、どっぷりアートの世界で過ごしてきました。理系の大学に来ることになるとは、全く予想していなかったわけです。しかしそれは決して占いの偶然ではないのです。私は鉛筆を握っていたのにいつのまにかコンピューターを道具にしていました。時代はくっきり分けていたボーダーを超えはじめています。大同に情報学部が出来たことは、明確ではない今を取り込み未知の可能性にチャレンジしていくことなのだと思います。楽しいことです。



情報学部情報学科講師

浅井 淳

プロフィール
最終学歴 アリゾナ州立大学大学院(電気工学博士課程中退)
学 位 理学修士、英語教授法(TESOL)
最終前歴 翻訳家
生年月日 1964年8月8日
専門分野 テクニカルコミュニケーション、産業翻訳
趣 味 野球観戦

数多くの転居を経て郷里に戻りました。その間、学ぶ立場でも教える立場でも、重要と感じたものに視点があります。例えば、カタカナ言葉は、元の言語との発想の違いをつかめると理解が開けたり進んだりすることがあります。このように、単に知識の吸収だけではなく、豊富な視点を養うことが外国語学習の大きな意義です。教師が学生の視点を考慮するのは当然ですが、学生のみならず、どうしてこれをこころい風にするのだろうかちょっと考えてみると、内容がよりよくなっていくと思います。

翻訳はもちろん、技術者として半導体開発に取り組んだ頃も様々な形でドキュメンテーションに関わってきました。社会で役立つよう、総合的な視点でわかりやすく情報を表現することを追求していきます。

息抜きは大リーグ中継を見ることです。最近では情報量が多くなり、うれしいかぎりです。

退任教員からのメッセージ

3月31日付で8名の先生方が退任されました。



物理学教室教授
兼 田 喜代志

昭和39年（1969年）4月新設された大同工業大学に、28歳で東大工学部助手より講師として赴任した。以後38年間人生の大部分を送らせてもらいました。一言でいえば“感謝”です。初代学長錦織清治先生を始め歴代の学長、理事長さらに沢山の先生方にも大変お世話になったことは誠に幸甚です。錦織学長に薦められて始めた振動の研究が、ライフワークになるうとは夢にも思いませんでした。2代目学長時の大学紛争や滝春校舎のワーキング、広報活動など今では懐かしい思い出です。形は変わりましたが、1期生と一緒に始めたスキースクールが続いていることは嬉しいことです。この間、最も大きく変わったのは学生の気質だと思います。初期の頃の卒研生は皆まとまって行動し、何よりもバイタリティがありました。私も若かったせいか卒研生とスキーやドライブによく行きました。最近はおとなしいが、各人バラバラです。最初は弟でしたが、やがて息子になり、今では孫です。また、U・400で始めたコンピュータも大きく変わりました。パソコンはインターネット、Eメールばかりでなく、Mathematicaで微分方程式の一般解や一部非線形まで解けます。また、制御理論や信号処理などにはMATLABが不可欠です。また、後者は偏微分方程式も解けます。現在はそういう時代です。

今後の私立大学も大変な時代を迎えています。本学も情報学部の新設を始め特色のある大学を目指して努力しつつあります。学長のもと益々のご進展を期待しています。最後に、私にはお二人の恩人がいますが、万分の一もお返しできないのは残念です。



教職課程助教授
松 浦 均

本学に職を得て9年間お世話になりました。この間に、本学は大きく変化してきたと思います。勿論良い変化です。その最重要事項は本学が世間に向けて打ち出した「教育重視」という姿勢です。研究と同時に学生の教育に教員が本気で取り組むこと、そのメッセージ性を学生もダイレクトに理解し自ら学習を進めていくこと、この基本的な信頼関係の構築に向けて大学全体が努力を始めたこと、学長が先頭に立ってリードしていること、このような意識改革と大学の基本姿勢ができつつあるように思います。これから先、本学はこの考え方のもと、確実に、スムーズに、スピーディに突き進んでいくことだと

考えています。

私はこの動きのまっただ中にながらこの度大学を移ることになりましたので、新しい職場では相当のカルチャーショックを受けると思いますが、「郷に入っては郷に従え」ということもあります。私自身は、ここで養った考え方を行った先でも自分なりに実行していくつもりです。それは今の時代において、本学の姿勢がそれだけのグローバル性を持ち、明らかに先見性のある行動だと自信を持って言えるからです。

教育重視という点では、実は学生に教えられることが本当に多くて、私の方が学生諸君に育ててもらいました。授業を通して学生と対話、メッセージをもらう度に、少しずつ成長してきた気がします。だからまずは、この点について学生諸君に感謝を申し上げようと思います。

最後になりますが、このような環境を作っていただいた学園と大学、諸先生方に深く感謝を申し上げます。いろいろな方にめぐり会って、人と人のつながりは実に温かいものだと感じています。大変幸せな時間を過ごし大きな宝物を得ました。新しい職場ではしっかりやることをご返礼だと思っております。末筆ながら本学のますますの発展をお祈りして、ご挨拶と致します。本当にどうもありがとうございました。



機械工学科教授
中 島 浩 衛

平成7年4月に本学の機械工学科の教授として赴任致し、満7年間勤務させて頂きました。本学に赴任する前は、企業に39年間も勤務しており、根っからの大学人ではありませんでしたが、皆さんからの色々なアドバイスや支えによって、学生の教育・研究指導を、さらに学科長（当時主任）や材研所長を、また副学長や大学院工学研究科長などの重責を勤めさせて頂きましたことを心から感謝申し上げます。この間、いろいろなことがありましたが、総括してみると、「大学で生きていく人生観・価値観」は、企業でのそれとは、非常に違ったものがあり、フレッシュな印象を受けました。大学にきた当時は、日が浅いからかもしれないとも思いましたが、それは退職の時期を迎えても変わりませんでした。

企業の場合とは一味違った個性ある多くの友人にも出逢い、卒業研究や修士論文指導などの手づくりの指導を通して多様な学生が人間として成長し、そして卒業していく姿に感動しました。7年間で学部学生が計89名、大学院生修士が9名、博士後期課程1名でした。私が退職するに当たり、私の研究室の卒業生が46名も集まって、3月中旬に謝恩会を開いてくれました。卒研指導が92M生から始まったので、彼らは就職して今では、中堅社員になって、この苦しい時代を頑

張っている姿に接することができました。これは先生冥利に尽きるものと、心底、大学に来て良かったと思えました。

大学改革も進展し、大変ありがたいことに、本学もほのぼのとした光明を感じられるようになってまいりました。大学改革はこれからが本番だと思います。一人一人の学生がどれだけ満足度を感じ、他の言うことに耳を傾け、他を思いやれる態度で人に接しられるようになるか、そのように取り組める態度を身に付けて世に送り出すことができるかが勝負です。学長を中心に教職員手を携えて前進して頂くことを期待して退任の挨拶と致します。ありがとうございました。



情報機械システム工学科教授
山 田 廣 也

23歳で就職し、還暦を迎えるまでの37年間を本学で働かせて頂きました。そして、私の青春も大同工大と共に過ぎ去りました。37年間を振り返りますと、色々な出来事が走馬燈のように浮かんで参ります。大同校舎の小さな会議室で結婚式を挙げたこと、学位取得を目指して夜を徹して研究に没頭したこと、家庭用小型風車の実用化を夢見たこと、長男の告別式で本学及び職員の皆様方の御厚情に涙ながらに感謝したこと等々。

私が本学に就職した当初は流体工学担当者が不在で工学実験装置さえありませんでしたので、まず実験装置作りから始まりました。数学的取り扱いの多い流体工学の担当は、私にとってあまり嬉しいことではありませんでした。しかし、名古屋大学との共同研究等を進めていくうちに少しずつ興味が出て参りました。そんな私が37年間を流体工学一筋に仕事が出来たことは、幸せであったと思います。

大同工業大学も4月から新学部の発足を期に、今後益々発展されることを心から祈って居ります。最後に、本学職員の皆様方の御健康と御多幸を御祈り致します。



電気電子工学科教授
高 田 和 之

本学には、非常勤講師として30余年お世話になり、平成7年からの7年間を電気工学科教授として勤務させて頂きました。専任としては7年間の短期間でありましたが、研究と教育とに精魂を込め、それぞれにそれ相応の成果をあげることができたことと自負しております。優秀な共同研究者と、よき院生とに恵まれ、日々が極めて快適でありました。同時に、日本学生陸上競技界のお世話もし、浮世絵師「東洲斎写楽」について造詣を深めるなど、楽しい日々を過ごさせて頂きました。

古希に至るまで在籍させて頂いたことに

関しては感謝の念で一杯です。ご指導とご協力をいただいた学の内外の方々に厚くお礼申し上げます。

ご存知のように、まだまだ元気でありますので、やり残した研究に関しては、共同研究者と継続いたします。また、社団法人日本学生陸上競技連合監事として、あるいは、日本人間工学会理事として、なお斯道の発展にいささか尽力したいと思っております。

4月からは、新しく「お茶」を始めます。喜寿に向けて精進し、喜寿のときには釜を懸けお茶会を開催するつもりであります。その折には、ご縁があれば皆様をお招きしたいものと楽しみにしております。

なにはともあれ、数々のご厚情に対して万感の謝意を申し上げるとともに、本学の発展を心から祈念申し上げます。



都市環境デザイン学科教授
桑山 忠

歴史に学ぶ

大同工大に建設工学科が開設されることになり、開設当初の教員として昭和51年(1976)に赴任してから26年が経過しました。赴任は、本務の都合により開設から1年遅

れましたが、当時のことが思い出されます。赴任当初から、開設時のカリキュラムの変更、測量実習場所の選定など教務に関する重要なことを処理したり、また学生は2年生でしたが、就職先の開拓で東海3県ばかりではなく、主として、関西方面を何のつてもなく飛び込みで会社訪問をしたことなどが懐かしく思い出されます。また、10年にもわたって、1年に3回も、岐阜西濃地区の高校40校程度訪問して、受験生を送ってもらうように広報したことも懐かしい思い出です。今でこそ中部の私大でのランクが取りざたされていますが、その当時は、10年遅れて建設工学科がスタートしたため、学生集めが至上課題でありました。少ない教員で、学生の教育が中心となり、研究のできるような雰囲気になってきたのは赴任してから10年を必要としました。

このような、大同工大の歴史を知る人たちが、一人去り、二人去りして寂しい思いをしてきましたが、ついに私もその一人となってしまいました。学園の60周年の記念講演で聞いた「常に後進に譲ることを考える人」「大局観のある人」「素直に人の意見の聞ける人」が組織の長として必要である」この言葉を噛みしめながら退職を決意しました。

今の若い世代の人はよくわかりませんが、歴史をよく知り、これからどのようになすべきかを考える必要があるような気がします。日本の戦国時代の数十年の間で農産物の生産は2倍以上、種子島に鉄砲が伝わってから57年後の関ヶ原

では3万丁といわれるほどの鉄砲で対峙した歴史を考えると現代の経済発展以上の発展を遂げていた事実を咀嚼して、現代に生かしていくことが、今求められているように思います。学生の教育、研究成果の社会還元など従来手法を踏襲する限り発展は望み得ないのではないかと思います。

最後に、大同工業大学の発展を祈願しております。



保健体育教室教授
柴田 一男



外国語教室助教授
中山 庄一郎

予習、復習に乏しい学生に自学自習の習慣を身に付けさせてください。

新刊著書を語る

要点がわかる材料力学

A5版 163ページ

著者 杉浦正勝教授
(情報機械システム工学科)
和田均教授
(機械工学科) 他

出版社 コロナ社

発行日 2002.3.25



杉浦正勝教授 和田均教授



一般に、講義で大切なことは「学生に最適な教科書を紹介すること」であるといわれている。時間的制約もあって、講義だけでは、内容の理解が不十分であるが、そのようなとき教科書の包括的かつ精細な内容のおかげで、助けられる場合が多い。材料力学関係の本は、理工系書籍のなかでも数多く出版されているが、それでも対象とする学生に合った教科書を選ぶことは難しい。しかし、だからといって教科書を用いなくて講義を進めると、教育効果が格段と下がることになる。だから、最適な教科書を見つけるには、量的にも質的にもさらにこの関係の書籍を充実させることが強く望まれている。

本書は、理工系で学ぶ大学生、専門学校生が最初に学ぶ教科書として最低限度必要な内容を出来るだけやさしく、簡潔にまとめ、要点を中心に書かれたものである。また、材料力学の入門書としての位置付けのもとに、エンジニアとして設計現場においても利用できるように配慮したつもりである。全体は10章からなり、1年間の講義で初等材料力学を完了するように想定して書かれている。

スウェーデンの福祉制度改革と政治戦略

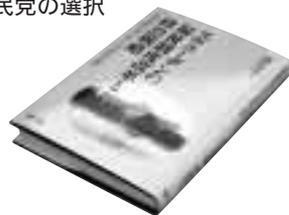
付加年金論争における社民党の選択

A5版 310ページ

著者 渡辺博明
(人文社会教室助教授)

出版社 法律文化社

発行日 2002.2.20



この本は、スウェーデンの社会保障制度の発達に政治がどのように関わっていたかを明らかにしようとするものです。同国の社会保障は、いわゆる「最低限保障型」から「高福祉・高負担型」へと発展してきました。そのきっかけとなったのが、この年金改革論争です。しかしそれは、単に年金制度の問題だけでなく、目指すべき社会像をめぐる当時の主要政党間の意見対立を反映したものでありました。そのため新制度誕生までに、国民投票や議解散を挟んで3年に及ぶ議論が繰り広げられました。遠い国の昔のお話ですが、政治家が論争を主導し、それが国民規模にまで広がり、その結果が国の進む方向を決めたという点では、今私たちが考えるべき政治の姿を考える上でも興味深い事例です。

本書はいわゆる専門書ですが、第2章から第5章まではノンフィクションの読みものとして読むことも可能です。政党間の激しい攻防が描かれていますが、そこには、「民主政治には(利権争いや不祥事をめぐる非難合戦ではなく)政策論争が不可欠である」という著者のメッセージも込められています。図書館に一冊寄贈させていただきましたので、興味を持たれた方は、お暇なときでもパラパラとページをめくっててください。

卒業研究でのアイデアが特許に



98 D 矢部 尊弥



98 D 矢部 泰成

卒業研究テーマ「IT技術を利用するビジネス提案とその試作」で、電子情報工学科井上研究室の卒研生、98 D 矢部尊弥、矢部泰成(応用電子工学科4年生)両君の考案したアイデアを、平成14年1月21日に井上教授とともに共同発明者として、特許名称「ホームセキュリティシステム」、特許庁受付番号「特願2002-11986」として出願しました。

卒研生のアイデアから特許の出願に繋がったのは、本学始まって以来初めてです。

特許内容は、インターネットと携帯電話を使ったホームセキュリティシステムで、家庭内に設置されたセンサに異常が発生すると、自宅のパソコン(PC)

C)が異常を示すホームページをインターネット上に公開すると同時に、プロバイダ、携帯電話接続業者を通じて予め登録された携帯電話に異常発生を通知するシステムです。

携帯電話には、自宅に異常が発生したことに加え、インターネット上に公開したホームページのアドレスを通知するので、利用者は自宅のパソコン(PC)にアクセスしてホームページを見ることにより異常内容を詳しく知ることが出来るようになっています。

泥棒の侵入や火事発生等の場合には警察署、消防署に通報することが可能となるなど、外出先から迅速に適切な処置を取ることが出来ます。

警備保障会社との契約セキュリティシステムに比べて、制御の殆どをパソコンソフトで行っているため設置が簡単で、ランニングコストがかからない利点があります。センサの他に情報家電機器を接続し、その信号をパソコンに取り込むこともでき、自宅監視だけでなく外から情報家電機器の制御も可能となります。

卒業研究では、このシステムの機能試作までを行い、卒研発表会(2月13日)で実演し好評を得ました。今後は、このアイデアを企業に売り込むなど、ビジネスに繋げてゆく予定です。(井上研究室)

あなたには、夢がありますか？

吹奏楽団「第16回定期演奏会」が、3月3日(日)名古屋青少年文化センター・アートピアホール(中区栄、ナディアパーク内)で開催されました。

今回の演奏会は、アフリカンシンフォニーの軽やかな調べにのってオープニングステージが始まり、第一部には、企画ステージとして「プレーメン：あなたには、夢がありますか?」と題して、退部しようとする学生に「夢は持ち続けることの大切さ」を寸劇に取り入れるなど、趣向を凝らしたステージ。ファイナルステージは、大津敦氏(ファゴット奏者、アンサンブル「響」メンバー)の技術指導及び指揮のもと「J.スウェアリンゲン作曲、アヴェンチュラ」「A.リード作曲、吹奏楽のための第六組曲」の、しなやかで美しい演奏に、鳴り止まない拍手を聴衆から受



けるなど、厳しい練習成果が出た素晴らしい演奏会でした。

入場者の声：うちの吹奏楽団でも音域のあった演奏ができるんですね!感激しました。

クラブ活動報告

陸上部

一色マラソン大会も大和立幸君優勝

第37回一色マラソン大会(一色町体育協会、一色町主催)が1月27日、一色町総合体育館周辺で開催され、本学からは10km一般の部に出場した大和立幸君が、元旦ロードレースに続いての優勝を飾りました。

第37回一色マラソン大会(10km)の結果

01 J 大和立幸	1位	32分10秒
01 E 片桐雅樹	3位	32分26秒
01 M 宇野彰紘	12位	34分28秒
2 / 24 第24回犬山ハーフマラソン(10km)		
01 J 大和立幸	6位	32分35秒
01 E 片桐雅樹	10位	33分07秒
00 M 大森弘之	23位	34分37秒
01 M 宇野彰紘	122位	41分58秒

レーシングカート部

13.12 / 16 鈴鹿選手権シリーズ第9戦

01 M 伊藤邦彦 FP3-86 OP 決勝9位
13.12 / 9 SL 中日本カートレースシリーズ第9戦
01 M 伊藤邦彦 FP3-86 E 決勝8位

マルチメディアマックス部

1 / 20 真・女神転生TCG大会
99 C 加藤 貴 3勝3負
99 E 大橋正昭 2勝4負

ボウリング部

13.12 / 31 ダイドードリンコ杯
年末マラソンボウリング大会
00 M 山崎吉範 9位
00 M 山本達哉 24位
00 M 保田将史 26位

EDPS部

13.12 / 29 ~ 30 コミック・マーケット61
音楽CD 20枚販売
無料ゲームFD 40枚配布

本学主催 企業説明会

2月27日(水)午後、名古屋国際会議場にて、就職希望学生に対する企業説明会が行われました。本年度で4回目を数え、すっかり定着した感がありますが、本年は特に、最も広いイベントホールを使用し、過去最大の214社の人事担当者をお招きし、623名の学生(3年次生・大学院1年次生)と熱のこもった懇談が行われました。終了後のアンケート調査によりますと、応募したい企業はあった学生は76%、採用したい学生があった企業は83%と共に高率でした。反面、本学学生が注意すべき点は「意欲」であると54%の企業が指摘していました。いずれにしても、昨年の実績は、130名の学生(就職希望者の20%)が企業説明会参加企業に内定を得ています。来年は2月26日(水)に開催しますので、現3年次生は予定して下さい。(就職指導部)



地域交流

知多市少年少女スポーツリーダー研修会

日頃、知多市のスポーツ振興に貢献されている各種目代表者でもあるスポーツ指導者の研修会が、知多市教育委員会と本学社会交流センター共催講座として3月21日、知多市民体育館(知多市緑町5)に指導者及び保護者120名の参加のもとで開催されました。

平成13年度社会交流センター主催の最終公開講座でもある講座に、保健体育教室が協力。服部洋児助教授「栄養とスポーツ」、水野義雄教授「体の仕組み」のなかで、「今までのスポーツ指導は、根性論が主流であったが、これからは、シーズンに合わせた体作りが必要」、「出来ないのは経験がないから」との分かりやすく、丁寧な講義に参加者は真剣な眼差しで聞き入っていました。

平成13年度社会交流センターが開設した公開講座は、23講座、開講102日、受講者802名でした。担当して頂いた講師の先生方に感謝致します。



ファインセラミックスフェアで 澤岡学長講演



2月21日、ナゴヤドームで開催された「ファインセラミックスフェア2002、セラム・ジャパン2002」(財団法人ファインセラミックスセンター・中日新聞社主催)の今年のテーマは「新しい飛躍へ、環境・IT・福祉」110の研究組織や企業が出展、日用品から宇宙産材料までのセラミックス製品が紹介され、初日、国内外から14千余人の入場者でにぎわった。ドーム内セミナールームでは講演会等が開催され、本学の澤岡昭学長が「素材としてのセラミックス セラミックス材料の未来」の演題で「セラミックスはサイエンスに成りきっていない。マニュアル化されていないために技術移転がなされていない分野であり、日本として幸いしている」と日本の技術を護る必要性を説かれ、満席のセミナー室の聴講者から大きな拍手を受けられました。

桑山忠教授最終講義



建設工学科土木系に1976年4月、名古屋大学から赴任して以来26年間に亘って、教育研究活動に尽力された桑山忠都市環境デザイン学科教授の退官最終講義が2月22日、白水校舎4311講義室で行われました。

講義は、建設分野に世界最初に超音波を利用することに着目した桑山教授の研究成果「超音波の利用」について、超音波の出会いから課題までの講義が行われ、澤岡学長をはじめ教員、卒業生、学生ら60余名の聴講者は、コンクリートの締め固めに超音波を利用した実験成果の講義に聞き入っていました。引き続いて行われた懇親会に参会された先生、卒業生らと別れを惜しんでいました。

桑山忠教授は、1964年立命館大学理工学部土木工学科卒。工学博士、学位論文1990年12月大阪市立大「電気炉スラグの土木材料としての有効利用に関する基礎的研究」。審査論文17編、その他論文・報告書23編、著書2冊、特許2件。退職後は、(株)新東海コンサルタントで技術顧問(管理技術者)として活躍されています。

博士後期課程から博士誕生



樋尾勝也氏は(三重県科学技術振興センター工業研究部金属研究室)1999年4月本学工学研究科博士後期課程(材料・環境工学専攻)入学。2002年2月25日博士論文審査(土田豊指導教授)による公開講演会を経て、2002年3月20日付で博士後期課程としては5人目の学位「博士(工学)」を平成13年度学位記授与式にて澤岡学長から授与されました。

学位論文「新しい低クロムステンレス鋼の耐食性に関する基礎的研究」

論文要旨: ステンレス鋼の主要な構成元素であるCrは、21世紀には、Crを節約したステンレス鋼の開発が不可欠になると考えられる。本研究では、Crの代替元素として資源的に豊富なAlとSiとに着目し、耐食性に主眼を置いた検討を行い、新しい低Crステンレス鋼を提案している。また、この新しいステンレス鋼へのMoの効果についても調査した。

CRCにおい研究交流会

産学連携共同研究センター、生活環境分野/臭気評価・制御研究ラボラトリー(光田恵ラボ長)は、本館14階交流室に90余名の企業・大学等からの技術者・研究者を迎え、新分野である生活環境における“おい”の評価及び制御に関する研究交流会が3月5日、開催されました。

交流会は、岩間三郎産学連携共同研究センター長から、産学官連携の必要性を強調した挨拶に始まり、光田ラボ長の司会により「厨房排気の臭気の評価と対策」「空気清浄機、抗菌・消臭フィルターなどの脱臭機器の性能評価」「高齢者施設の臭気の評価と対策」の研究発表が行われ、学生が研究発表、補足説明を共同研究者(企業)によって行われました。

“おい”に関する学会やセミナーは東京が開かれる場合が殆ど、名古屋地区で開催されると在って活発な討論は、その後の懇親会まで続くなど、新分野に掛ける企業研究者の意気込みが感じる交流会でした。



ドリーム in TOKAI —宇宙と未来—

子ども夢フェスティバル「ドリーム in TOKAI 宇宙と未来」(東海市・東海市教育委員会主催)が2月23日、東海市立青少年センター、大田市民館で開催されました。本学からも澤岡学長が、漫画家であり(株)日本宇宙少年団理事長松本零士氏と共に「ドリームトーク」に、電気電子工学科関谷研究室が「科学コーナー」に参加協力しました。

「ドリームトーク」では、NTTテレビ会議システムを利用して東海市姉妹都市である米沢市の宇宙少年団へも中継され、両会場の子ども達からの質問に澤岡学長、松本両氏の分かり易い説明に、会場に集まった300余名の人達は宇宙についての夢や未来の話に満足していました。また、「科学コーナー」に出展したプラズマによる吸塵装置、オゾンによる汚水処理などの実験に、訪れた人達からの質問に関谷教授、卒研究生らは気軽に応じていました。



夢をかたちに

～ 創造製作センター長 青山正治教授 ～



滝春キャンパス移転を機に、工作実験実習室が創造製作センターとして生まれ変わった。(2001年4月)そのセンターに日本の、いや世界中の大学を探しても設置していない代物が実習教育用として導入されたと聞き及んだ。早々に、偉ご満悦な青山センター長のもとを訪ねた。

先生曰く、「ウン千万円もする“NCマシニングセンター”を入れたよ」と深々と腰をかけ直してスゲーだろうとおっしゃる。その後が大変、「立て板に水」の如く一気に捲くし立てられました。

創造性豊かな人材育成のために

創造製作センターは、“夢をかたちに”をモットーに実践的教育の場として“ものづくり”の楽しさを体験し、21世紀に求められている創造性豊かな人材育成を目指すとしている。そのためには、教育・研究をする上で不可欠な要件に実験機器の製作や修理に拘わることも“ものづくり”であり、その体験から創造する知識が生まれてくる。それに必要な設備機器の整備の一つとして“NCマシニングセンター”の導入であるという。

「機器が整っても、指導する人がいなくちゃ意味がないだろう」とおっしゃる。設備機器の利用・受託を含む支援をするために、センターでは「企業でバリバリやってた、その道ベテラン技術職員が揃っているんだよ」と、人と物が揃っているのは本学だけだと身振り手振りよく自慢げに語る。

事実、旋盤・仕上げ・溶接・鋳造技術を持った工匠技術職員7名とそれぞれの設備機器が一箇所に整備されている大学は、あまり聞いたことがない。ウン、自慢するだけはあるなと納得する。



NCマシニングセンター

大学の役割の一つ

センター長、いよいよ熱を帯びて確信に迫ってきた。「わが国の製造業の国際競争力を高めていくことが“ものづくり”立国として最も重要な課題とされているんだ」と、何処かで聞いたお硬いセリフ。

それに、産業における機械製品は、概念設計から出発して設計・製図・解析、試作から製品の製造・生産に至るまで、すべての開発・製造プロセスがデジタル化されようとしていると云う。

このような背景の中で、21世紀を迎えて、社会・産業界の要請に応え、産業発展への貢献を果たすために「大学の役割の一つとして“ものづくり実践的教育”による人材養成が必要なんだよ」と、センター長、力を込めて結んだ。「少々難しい話しになったけど、今の若者は製造業(3K)離れであり、製品は機械が勝手に造るもの。と理解し、高精度の部品・製品はどのような“仕組み”によって出来ているのかが理解されていないんだよ、ウン、そうなんだ。

大学基準協会から相互評価認定

機械系学科は、工学実験・設計・製図・工作実習・CAD実習など実践的な教育に力を入れて人材養成に努力している。

平成11年度、大学基準協会による大学評価(相互評価)を受け“ものづくり”の基本技術である“機械加工技術、接合技術、鋳造技術”の各分野を工作実習室に設置し、実学に即した教育に成果を上げている点は評価できる。”との高い評価の認定を受ける。

3次元CAD/CAMモデリング製造加工システム

センター長、今回、導入された“3次元CAD/CAM(モデリング)製造加工システム”について、お聞かせ下さい。

「このモデリング製造加工システムはだなぁ、設計から生産加工と管理、機械の保守診断までまとめた製造システムなんだわ。従来からやっとな実践的教育を、より前進させ、若い生氣ある学生らに“ものづくり”の大切さ、重要性、それに面白さや夢などを抱かせてくれる3



次元設計(CAD)に加えてだね、いま脚光を受けている情報技術の通信ネットワークを使って、遠隔自動生産加工する3次元製造加工(CAM)を体験学習してもらうんだわ」と、おや、名古屋弁らしき言葉になってきた。

「まァ、ミニ工場のインターンシップだわなァ」と、得意満面。

“具体的な設計(実践的)+製作(体験的)”の学習を通じて、機械デザインの考え方や手法を身に付けさせ、潜在的な創造性を呼び覚まし、問題の発見やその解決能力を養成することを目指している。

「授業後や空いた時間にセンターを使ってほしい。材料代はもらうが、使うのはタダ。それに、使い方も教えるでえ」青山センター長は、生粋の名古屋人だ。

センターの片隅で一人の学生が技術職員の指導受けながら、旋盤加工をしている光景を垣間に見てセンターを後にした。

装置の構成

1 製造加工機械

マシニングセンター(MC) 2台
 最大加工範囲: 幅600×奥行き450×高さ450mmまでの加工が可能、
 回転速度: 最大12000rpm
 工具収納本数: 20本
 本格的なプレス加工用金型まで加工可能
 数値制御旋盤(CNC) 2台
 最大加工径: 250mm、最大加工長さ: 300mm、
 回転速度: 6000rpm、刃物工具取り付け本数: 12本(1台)
 最大加工径: 270mm、最大加工長さ: 560mm、
 回転速度: 6000rpm、刃物工具取り付け本数: 12本(1台)

数値制御フライス盤 1台

2 コンピュータサーバー・クライアント
 サーバー 1台 クライアント 6台
 HD: 200MB×300名 = 60GB以上、
 メモリ 256MB以上 OS winNT 4.0

3 元デラーソフト

加工方法シュミュレーションソフト 10本
 NCマシニングシュミュレーションソフト 10本



私の人生と大学

機械工学科教授 中島 浩 衛



本学に赴任して以来、7年間お世話になってきました。古希を迎え、このたび本学を定年退職することになり、改めて自分の人生を振り返ってみることにしました。機械工学科の教授として赴任すると、最初に清家教授（東北大学の先輩）に「おい中島君、と声をかけられ、また、新日鉄の先輩の細井教授がおられ、あまり違和感もなく教員生活が始まりましたが、機械工学科の学生に対する面倒みのよさには、大変感心しました。後にこの面倒みのよさが、非常に重要であることを味わいました。

毎年、卒論の指導や就職の世話などをしながら、自分が大学を卒業して就職した当時のことを思い出しつつ、学生諸君がどのような考え方で生きていくべきかなどよく語ったものでした。東京から急行列車（座席）に乗って、長い関門トンネルを抜けると、そこはこれからの人生の大半を過ごす山間がすぐそばに迫る北九州の地がひろがっていました。バイオリンを片手（当時は下手なバイオリンを弾いていた）に、煙がもうもうとあがる鉄鋼の町、北九州、八幡に降りたのでした。入社した昭和31年（1956年）当時の鉄鋼の生産量は、全国で11,678千トン（現在約1億トン前後）、八幡製鐵所が2,673千トンでした。戦後の復興から立ち上がり、やがてやってくる高度経済成長時代への出発点の時でした。

鉄鋼研究の歴史と伝統のある八幡技術研究所に配属され、そこには、鉄鋼研究の錚々たる先輩達がおられ、鉄鋼技術の研究開発の先陣を担っておられました。特に今でも印象深く思い出すことに、かなりハードで楽しい新入社員研修（一年間）がありました。課題テーマの研究、成果の実演発表、鉄鋼研究

の始まりは組織観察の実習（5cm角試料の研磨、エッジ部の写真撮影）から、毎週の輪講を新入社員が担当、慣れない文献（英語かドイツ語）を読まされたけれども、この一年間の研修が鉄鋼の技術研究者としての基礎となる精神を仕込まれたような気がします。

研修が終わって薄板研究室に配属、そこで自動車用鋼板の製造研究、プレス成形研究を開始、当時トヨタ自動車が観音開きのクラウンを世に出した頃でした。プレス成形研究は、どちらかという技術サービスの要素が強く主流とはいえなかったけれど、自動車の大量生産ライン時代がはじまる頃であり、次々と薄板材料の新しい性格のクレームが続発、これへの対処が重要となっていました。現在では、鉄鋼と自動車の両メーカが一体となった研究開発（Simultaneous Engineering）が主流となっていますが、当時としてはまだこれからという状況でした。それらの研究をまとめて、昭和43年（1968年）「薄板鋼の張出し成形に関する研究」で工学博士（東北大学）の学位を頂き、ちょうど、入社して12年目でした。学位を頂くにあたり、大学の恩師、横堀武夫教授（材料強度学の世界的権威者）のご指導を頂きました。自動車車体パネルなどのプレス成形限界を求める手法が、海外でNakajima's specime methodと呼ばれ、標準的な手法として採用され、私の研究は思わぬところで有名になるという幸運に恵まれました。

その頃のもう一つの研究課題が、鉄鋼材料の熱間圧延の高速変形における変形抵抗の研究（圧延荷重予測のため）でした。この分野の研究が、やがて材質予測のためのきわめて重要な課題となるきっかけをつくったのが、Aachen工科大学卒のPhDをもった若い新入社員（現新日鉄鉄鋼研究所の瀬沼部長）でした。海外への出張は数多くありましたが、昭和35年（1960年）初めて欧州に出張し、初めてみる世界は非常にフレッシュな印象でした。その後の欧州出張のあり、Aachen工科大学の塑性加工研究所を訪れたとき、若き日のKopp教授と逢う機会がありました。前任者のVater教授の後任として着任したばかりのようでしたが、将来このように変えてゆきたいという抱負を語ってくれました。私が本学にきてからも3回ほど、訪問する機会がありましたが、その変革ぶりと若手の研究者の成長は目を見張るものがありました。（39年間、戦後の復興期、高度経済成長期、現今のような飽和・停滞期を、企業に研究者・技術者として勤めた経験は、大変貴重なものでしたがここでは省略）

「三つ子の魂、百まで」とは、よく言ったものです。大学に来て、卒論と修論のテーマに選んだのが、主として「薄板のプレス成形性予測の研究」と「FEMによる熱間加工の材質予測の研究」でした。前者のテーマは博士後期課程の顧莉薇さん（中国上海出身）が博士（工学）の学位を、昨年暮れに取得してくれました。また、企業からの委託研究成果も挙げることができ、この5月、名古屋で開催されるIDDRG国際会議に2編発表予定となっています。

後者のテーマは、大同特殊鋼(株)技術開発研究所から6年間に渡る委託研究の支援を頂き、同研究所の最新鋭実験装置による実

験の実施によって、修士課程の院生3名が研究成果を挙げてくれました。一方、上記のテーマで科研費の申請を3回にわたって行い、遂に3度目の正直で認可を頂きました。研究テーマ「省エネルギー熱間加工における金属材料の組織の予測と最適制御に関する研究」に対して、平成11年～平成13年度科学研究補助金、基盤研究(B)(2)の交付によって、3年間に渡って、本学の提携校であるAachen工科大学のKopp教授との国際間研究交流、共同研究を行うことができました。この間、国際会議に2編発表する機会がありました。

7年間で7名の大学院生が大学院を修了し、立派に成長して社会に巣立って行きました。学部学生が卒業研究などを通じて成長する過程で、兄貴分として大学院生達の活躍の影響は、非常に大きいものがありました。研究テーマの継続性と自分たちの新規性の区分、実験手法の継承性、発表のテクニクなど、まさに先輩の背中を見て育つ観がありました。大学院生達の立場からは、権威をもった指導力が問われ、それだけ腕を磨く必要性にも迫られた訳です。もう一つは、産学連携共同研究によって、派遣されてくる共同研究員（社会人）の影響でした。双方共同作業のメリットが十分あり、例えば、一方では指導してもらえること、また、他方では実験作業の進捗でした。受託研究の委託先へのレポートの提出など、よく努力をしてくれました。

私の現役最後の3月末に、日本鉄鋼協会から野呂賞（協会功労賞）を頂く栄誉に浴しました。それまで野呂賞のいわれをよく知りませんでしたが、野呂景義氏は官営八幡製鐵所設立計画書を起案（明治24年）、1901年（明治34年）には八幡製鐵所が建設され、ドイツ式製鐵技術を導入、基盤技術がなかったので失敗に失敗を重ねた末、野呂景義氏が再登場して高炉を立ち上げたと伝えられています。日本の近代製鐵技術を築いた祖ともいえる人であることを知り、ちょうど、日本の近代製鐵技術が生まれて100周年にあたり、私がこの記念すべき賞を頂戴することも、何かの因縁を感じました。

自分の人生にとって、大学への勤務が、現役として勤めること最後の機会でもありました。そのような意味において、健康で終わることができることの幸せに対して、神に感謝したい気持ちです。ここしばらくは、名古屋にありますが、いずれ北九州に移る予定です。これから先の人生において、何が起こるかわかりませんが、願わくは、70歳代の10年間はゴルフの腕の復活を願って精進いたし、大学での友人ともお手合わせをお願いしたいと思っています。この7年間、田中理事長をはじめとする理事会の方々、澤岡学長をはじめ教職員の皆さん、さらには、後援会、同窓会、同親会の皆さんには、大変お世話になり、楽しく過ごさせて頂きましたことをお礼申し上げます。特に機械工学系学科の皆さんには、言い尽くせないほどの思い出と楽しさを持たせて頂きありがとうございました。大同学園、大同工業大学のこれからの益々の発展を祈念するとともに、期待をいたしております。

クリーン
キャンパス
キャンパスを笑顔で
満開にしませんか
めざそう
クリーンキャンパス

キャンパス カレンダー

4 月

- 18日(木) 履修申請確認表配布(19日まで)
履修変更申請書受付開始
(土日休日除く5月10日まで)
- 20日(土) 集中講義・補講
- 27日(土) 集中講義・補講
- 28日(日) 新入生歓迎会
- 29日(月) 平常講義(みどりの日5月7日に振替)

5 月

- (5/2~5/7まで連休)
- 2日(木) 開学記念日(10日の振替休日)
- 7日(火) みどりの日(4月29日の振替休日)
- 8日(日) プレ就職ガイダンス・3年次生
(14日まで)
- 10日(金) 履修変更申請書受付締切日
平常講義(開学記念日2日に振替)
- 11日(土) 集中講義・補講
- 18日(土) 集中講義・補講
- 19日(日) 大学祭「仮装行列」
- 23日(木) 大学祭「前夜祭(夜間主休講)」
- 24日(金) 大学祭「本祭(休講日)」
- 25日(土) 大学祭「本祭」
- 26日(日) 大学祭「本祭」

6 月

- 1日(土) 集中講義・補講
- 2日(日) クラブ対抗新入生歓迎ボーリング大会
- 8日(土) 集中講義・補講
- 15日(土) 集中講義・補講
- 19日(水) 前期学生代表者会議
- 22日(土) 集中講義・補講
- 24日(月) 第1回就職ガイダンス(28日まで)
- 29日(土) 集中講義・補講

7 月

- 6日(土) 集中講義・補講
- 13日(土) 集中講義・補講
- 17日(水) 土曜日の授業・集中講義・補講
- 18日(木) 昼間主(フレックスコース)休講
- 22日(月) 前期定期試験期間
(土日除く8月3日まで)



人事室

- 理事就任** 平成14.4.1付
澤岡 昭(学長) 岩間三郎(副学長・電気電子工学科教授)
- 評議員就任** 平成14.4.1付
事口壽男(都市環境デザイン学科教授) 中村 肇(情報機械システム工学科教授) 河合博司(大同高等学校教頭) 武田洋二(総務部長兼経営企画本部副本部長)
- 大学退職** 平成14.3.31付
専任教育職員 柴田一男(保健体育教室教授) 高田和之(電気電子工学科教授) 兼田喜代志(物理学教室教授) 山田廣也(情報機械システム工学科教授) 桑山 忠(都市環境デザイン学科教授) 中山庄一郎(外国語教室助教授) 松浦 均(教職課程助教授)
- 専任事務職員** 大竹辰也(大学事務部長) 村瀬 篤(図書館事務室長) 西村祐一(情報教育センター事務室長) 佐藤慧子(図書館事務室)
- 嘱託職員** 大林重夫(図書館事務室) 荒川 武(電気電子・電子情報工学科) 橋立光男(電気電子・電子情報工学科) 早川昌秋(電気電子・電子情報工学科) 安井昭一(電気電子・電子情報工学科) 湊 栄一(都市環境デザイン学科) 伊藤 悟(産学連携共同研究センター) 山口鐘之助(創造製作センター) 栗本由香里(教務室)
- 特別嘱託職員** 木下 進(就職指導室)
- 臨時補助員** 旗 秀光(機械・情報機械システム工学科)
- 大学採用** 平成14.4.1付
専任教育職員 松居正夫(機械工学科教授) 堀 美知郎(機械工学科教授) 佐藤秀樹(情報学科教授) 山内五郎(情報学科教授) 坂倉守昭(電気電子工学科助教授) 檀田珠実(情報学科助教授) 原科 浩(物理学教室助教授) 石田敏彦(情報機械システム工学科講師) 木全博聖(都市環境デザイン学科講師) 浅井淳(情報学科講師) 谷村 亮(教職教室講師)
- 専任事務職員** 福井和雄(情報教育センター事務室長)
- 嘱託職員** 牛谷内昇雄(機械・情報機械システム工学科) 池田修身(電気電子・情報学科) 石井 功(電気電子・情報学科) 田中健太郎(電気電子・情報学科) 西山幸男(電気電子・情報学科) 吉田孝志(都市環境デザイン学科) 飯味昌己(産学連携共同研究センター) 澤木 弘(産学連携共同研究センター) 岩田 誠(創造製作センター) 林 克己(創造製作センター)
- 特別嘱託職員** 草加勝司(学習支援センタープロジェクトリーダー)
- 大学昇任** 平成14.4.1付
専任教育職員 近藤 巖(情報機械システム工学科教授) 山田忠比古(電気電子工学科教授) 堀尾吉己(電気電子工学科教授) 大東憲二(都市環境デザイン学科教授) 横手裕治(情報学科助教授) 渡辺博明(人文社会教室助教授)
- 大学異動** 平成14.4.1付
専任教育職員 坂 貴(電気電子工学科教授) 井上茂樹 岩田 晃 岩間尚文 遠藤敏夫 大石弥幸 国立 勉 佐橋稔雄 藤田順治 三品善昭(情報学科教授) 愛知久史 烏野壽章 藤本 博(情報学科助教授) 早川謙二 茂吉雅典(情報学科講師)
- 専任技術職員** 山下昇一(創造製作センター技師)
- 称号授与** 平成14.4.1付
名誉教授 兼田喜代志 柴田一男 中島浩衛

- 委嘱** 平成14.4.1付
役職者(任期: H14.4.1~H15.3.31) 藤井省三(大学院研究科長) 藤田順治(情報学部長)(任期: H14.4.1~H15.9.30) 和田 均(大学院副研究科長兼博士後期課程材料・環境工学専攻専攻長) 佐々木秀太(教養部長) 曾我静男(学長補佐) 笠嶋 泰(学長補佐) 杉浦正勝(図書館長) 土田 豊(社会交流センター長) 岩間三郎(産学連携共同研究センター長) 中井靖男(電気電子工科学科長) 舟渡悦夫(都市環境デザイン工科学科長) 遠藤敏夫(情報学科学科長) 近藤芳孝(大学院修士課程電気・電子工学専攻専攻長) 関谷昌久(授業開発センター副センター長) 渡邊慎一(授業開発センター副センター長)
- 客員教授** 平成14.4.1付
(任期: H14.4.1~H15.3.31) 末松安晴 玉川惟正 中井三留 藤原俊隆
- 客員助教授** 平成14.4.1付
(任期: H14.1.1~H15.3.31) 横山弥生
- 大学院客員教授**
(任期: H14.4.1~H15.3.31) 五十嵐一男 池田 泰 入山恭彦 岡部道生 中村 守 村上純一 渡邊 悟

エクステンションセンター開設

4月1日、本学にエクステンションセンターが開設されました。コンピュータ、英語、学科の専門関係など、様々な資格を取得したい人を支援します。資格取得支援講座を開設し、願書の配布や資格に関する相談にも応じます。直接、資格に関わらない講座についても随時開設します。講座やその他のサービスについての詳しい内容と最新情報などは、本学ホームページのエクステンションセンターのページで紹介しています。是非、一度覗いてみて下さい。

カウンターはA棟1Fの学生室の隣にあって、対応時間は9:00~17:30です。関心のある資格や事柄について、何でも気軽に相談に来て下さい。(エクステンションセンター)

高等学校の校名変更

大同高等学校の校名が、「大同工業大学大同高等学校」に4月1日から変わりました。昨年度、文部科学省より寄附行為変更及び愛知県私学振興室の学則変更届が、平成13年11月15日付けにて、認可及び受理されました。

これにより高等学校は、より一層の飛躍が期待されます。

編集後記

桜の花が爽やかな薫風によって散り、草花や樹も芽ぶいて、初夏の訪れとなりました。新入生の皆さん、本学の情報誌「キャンパス」が贈るメッセージに期待して下さい。

社会交流センター
E-mail: pccir@daido-it.ac.jp
大同工業大学ホームページ
http://www.daido-it.ac.jp/